



M332 TA・SHOH〈掌〉
2003
アクリル、油彩 / 綿布
220x1757cm(14枚組)
BOX KI-O-KU (旧都立織維試験場)c室

一方、「アートプログラム青梅」の立場から、数多ある同類の展覧会の中での「アートプログラム青梅」を考えたとき、実は4つの教育機関からなる学生展を本展が内包していることは大いなる特徴として浮上する。ならばその作品群の強度が問われることともなるだろう。僕らが、彼らを未発生の作家とみなしていない以上は、彼らもまた大学という隔離された特殊な箱の中で守られているのではなく、作家としての自覚と強度が要求されることになる。

7回を終え、「アートプログラム青梅」の次なる展開を今考えようとしたとき、その「強度」こそが問われ、そのために大いなる更新が要求されているように思われる。

母袋俊也

1954年長野県生まれ。1978年東京造形大学絵画専攻卒業。1983-87年フランクフルト美術大学ライマー・ヨヒムス教授に学ぶ。1986年より複数パネル様式による、フォーマットと精神性の相関をメインテーマに制作を展開する。1995年、偶数パネル作品を「TA系」と命名。1999年「絵画のための見晴らし小屋」を制作開始、2003年 越後妻有アートトリエンナーレ他各地に制作設置、TA系絵画と連動展開する。2001年 正方形フォーマット「Qf系」の開始。主な個展として、2006年「風景・窓・絵画—アーティストの視点から：母袋俊也の試み」埼玉県立近代美術館、2007年「母袋俊也〈絵画のための見晴らし小屋〉—水平性の絵画〈TA〉の展開」辰野美術館（長野）、2008年「母袋俊也 窓—像 KY OB AS HI」INAXギャラリー（東京）、2009年「Qf・SHOH〈掌〉90・Holz/145」ギャラリーなつか（東京）など。神奈川県藤野町で制作、在住。



fig.3

M400 Qf・SHOH〈掌〉90・Holz-3 / Qf キューブ 90,09-1



fig.4

Qf キューブ 150,09-1